

再校

江戸砂子

芝
西窪
麻布
平尾

五上



再校江戸砂子温故名跡誌卷之五

古
沾涼纂緝
恒足軒再校
冬涉訂正

十五 豊嶋郡麻布領
北之 西窪 愛宕下

十六 荏原郡
麻布 平尾

十七 同郡品川領
三田 二本枒 高輪

十八 同郡
品川 鈴森 大井 池上 矢口

十九 同品川領 馬込領
白金 目黒 世田谷領 碑文谷

(十五)

芝 溜池 西窪 愛宕下

○神明宮

日比谷

神領十五石

別當金剛院

伊勢太神宮御影遷

神主 西東采女 西東左近

内宮日本紀垂仁天皇二十五年天照太神誨倭姫命曰是神

風伊勢國則常世之浪重浪歸國也傍國可憐國也欲居

是國故隨太神教其祠立於伊勢國因興齋宮于五十鈴川

上是謂磯宮則天照太神始自天降之処也前後畧

外宮神皇正統記雄略天皇二十一年丁巳冬十月伊勢皇太神

教大倭姫命令迎豐受大神於丹波國与佐真井原大倭姫

命奏之明年戊午秋九月差勅使奉迎之九月鎮坐于度會

郡山田原新宮邇自垂仁帝御宇皇太神移五十鈴川西

而至此年既四百八十四年 下畧

當社飯倉神明宮ハ人皇六十六代一條天皇御宇寬弘二年九月十

六日ハありて御神幣ト大牙一枚此地ハ降ル人民ありし所ニ

七歳ハりの兒女ト從してのこましく我ハこれ伊勢西宮の神トシ

地ト信んて寢室ありしハ後聖トシてまゝ其後百トせ成

神ト後多羽天皇建久四年深敷朝天下跡ト非須也ハ後向の時

初教ありて並刻ト納一千二百余貫の神田ト云所トシハ神職

朝ト並(神光)やハ日ハ小き入りり百四代後土御門天皇明應三

年伊勢朝九帝氏茂相臣小田原の城ト大虫交戦トセ一國あり

威トありハの初當社の神ト據トシハ神後ト被トすハハハ

修補トス便トナリ年月ト移ト又その後正親町天皇天正年中

法社法寺の絶トスト継トシハハハハハハハハハハハハハハハハ

陰ト又寛永十二年御信教トナリて神修造ト加トセトシハハハハハハ

和光の月トナリトハ利物の英トナリトナリトナリトナリトナリトナリ

△當社四地ハ今場上寺の山際トナリて其地名ト飯倉トナリ

再抄江府名目云 卷之 三

△ある人の云は所はむい、宴食あり其はは社達よりく飯余社明のよ
舊記曰宣化天皇為民設于諸国穀倉一救洪旱は穀倉

補

△浄洗 佐吉社の下より涌出すは水と病眼と使て效ありと云
△納維 尚社の雞、空水の頂仰奉納のり、と云は傳今もはより

△生姜市 毎年九月十日より廿日までの間かゝる賑入

市の産 檜 郭 籬 俗名 臼 杵 木 鋒 菓 土 生 姜

本朝醫方傳 姜 本 穢 惡 通 神 明 と 云

此くやのるのるのの例をうへ

補

社家 為川藏至中丞主水 坊尾兵庫 多田外記 巫女 大和 因幡
田中内記 守屋隼人 河野至了 瀧木内膳 和泉

○含海山 青松寺のうへりの山

○切通坂 坊上寺と青松寺の間の坂也

○時鐘

同所あり 補 撞撞 若松菰古馬

○幸稻荷 切通も亦郭との名をうへり、神主長岡傳藤守

○梅川 菑宕の麓青松寺前の流宇田川よりく

むしさう田、梅樹多し、風土記に又えりとの梅田乃
流るれくさう川といひむし、川をのり、江府
繁葉にさう川とせりめて大森のや、記とせり、

つう書よ白青松寺前、汐入の葦沼より、正保は、寺のまろ
すてハ六月を天も乃あり、僕も下結とせり、せは新とこ
下結して通うとあり、は後大相違せり、寛永乃

まろの江戸絵圖とあり、人の如信よ青松ちま、惠や、き
し、一柳家の下やき又ハ青木甲斐ち、友川、務、信、隆、ち、友、か
と、は、み、か、り、油、漬、ま、て、は、け、つ、の、ま、を、今、新、銭、屋、と、い、ひ、

つ、り、片、町、と、い、ひ、入、の、地、を、い、ひ、

○新馬場 青松寺の門より坊上寺裏つ前の間

此所は、め、ハ、平、た、ま、橋、及、や、ま、き、之、享、保、の、始、の、あ、る、廣、小、路、に、あ、る

補

○伏久間小路 兼房町より坊上まで通西の始の小路より
前板右のあり 芝長のまろは小浜南の角伏久間不田を横
小路西へ三折目伏久間日向少例二折目伏久間板代三折目
西の角伏久間大橋をなや一町のりは伏久間家五人の
やききりしぬのり

補

○梅屋敷 日南へ通武田長春院をやききりしぬ

補

○三雲小路 日西へ三折目三雲折れをなやききりしぬ

補

○田村小路 日三折目田村家をなまの横通より

○日比谷稻荷 芝口三折目 別あか山修論 寂靜院

里渡日万治の頃は所々傘の具をひきくあひ藍屋五を修りしもの
りる山伏よりきゆはりの小き宮と持ありしは山伏後の森の
稲荷のきよかりりし藍屋をきり稲荷とよく信仰よりりて
うり山よりりてりしものと同一我々京都のものとよき
靜院より當地を縁かりりといれり一夜山伏とやどりし夜

夢中に稲荷の神堂を以て告ぐるのまはく當地は静たすき
祈りて汝等よを見とくるしむる朝は東橋のかかりしよ
次々と御奉行所へつて入りし神堂より入りしものありて
別々のものは令子と下りたりしもの此とよきありし縁
解きなりし今も存せりその後折れ所ありしもの耐文社古
帳よりありし縁を断絶せしきよは移りしものありて
ゆきかたに沖免許ありしはあのおききりしものありし
日比谷三折目の産土神也 祭礼二月初午

○芝口橋 日南と日比谷をよけぬ新橋よりひき宝永の頃

御門より芝口御門よりそのとに芝口橋を改り日比谷

と芝口町より享保のはりの回縁ありて御門今ハナ

○芝井町 日比谷は芝居ありしとよき芝居町を

○源助橋 日比谷の右のまきりしものありし

○油の井 原助町とて葉山家やきの内より

補

○長南崎 原助町の流の末海より

○新銭座 宇田川所海より町の所
寛永年中すては所おの昔平江の改入より所は例と成て
より次第は築出の地となりそのより寛永の後と録より
をあり

補

○三崎町 江戸編修大橋福勝の之家の中よりあり
前坂の後遷りて其長すて編修佐佐木中よりあり
その所は今増上寺城内より久留河越後より編修市之
惣後をありてしる所なり

補

○金杉櫓 新銭座の末より櫓

○金杉大明神 今ハ諏訪安齋さまやきの内よりあり
今杉十一町の産土神とてしる所の地と今安齋さまは
いっしりと其流も自由なり今とてしる人も稀なり其

補

地ハ今杉通りよりより半町よりよりありてしる人もあり
のかしこしと偏りて土人の家もあつたりぬ近年今も其地は
神本ときしりてしる所なり

補

○土の趾所 元禄年中新銭座の土の所なり成りあり
○新細町 今杉けいの下海よりあり

○牛尻 新あいの町の内村昔替く牛をありけり
○雑魚場 芝さう店の海に漁獵する所なり
○御穂神社 本芝通西側 両社 別當 天台 和光山本竜院正福寺
○鹿島神社 同所海手

風土記 古老傳云昔有神女自天降来曝羽衣於松

枝漁人拾得而見之其輕軟不可言也所謂六銖
衣織女機中物乎神女乞之漁父不與神女欲上
天而無羽衣於是遂與漁父為夫婦盖不得已也
其後一旦取羽衣乘雲而去漁人亦登仙は二神

卯の夏の頃春音よのさほく神祠と宮搦し勝軍の像と奉
人せんといつこの地可なりや去庚子の年因京の役し勝
軍の法と儲けいづれの地なりと説くことありて中より武州搦田
の村民内菟六郎山崎と即石河六郎なる村に命し奉り
奉行し地と譲り基と闢て仮住とすぬと九月にむり
功と竣く廿四日に行けり其後の散札とゆきふ下は院を
搦し春音の坊は通照院とす今の急福寺其坊にて條其院は
今の令別院とす覺院仙花院華光院法無院等と
神證字は春音後春香と改下野小入姓塩谷母は皆川氏と
内藤六郎後山伏と成長と云罪のふりて述と削らる
慶長十九年庚戌本社幣殿拜殿閤門悉御建立あり
元和三年丁巳老徳邪王子村より百石の地を山伏より
因丑年 釣命ありて林院に退居と許し令別院におお
終老すいづけり此の園山といふ下妻の俊賀和尚は賜り

俊賀和尚字圓精 下野國人姓越路氏宇都宮絰之師教綱
の後裔とす其の圓福寺に在り

圓福教寺 智積院末 當山別當職 真言四王寺の内

地主稻荷社 太郎坊 荒神 天王 各慶長十九年の造立之
石壇六十八階 一八と男坂と云 右の方に女坂といふあり

△本地堂 地蔵あり 補 別當 金剛院

山上より東南をとり芝浦の眺望をとり、房総の山平
のふりし海上の風景形ありあり

補 ○搦川 あらと中ノ流より搦田の流よりとす

○小身小路 田村家の前の通

○藪小路 ちよこの下やに水踏の四辻あり、浦より教あり

補 薪板もさほくの俊ありもさほく形あり、教令神ありり
後もあると慶長より実承承りては所細川を命し中一きと
すのあら、教も志けりて世間ほくもあらり、尋らぬ事あり

くくしいまはざりしと當付ら加敷仔細を申せりてまゝの
外かゝいのゆゑ

補

○之斎城 同中一きの池ありてき比をりし

○鳥森稻荷社 別當 快長院 山田繼邦

朱雀天皇天慶五年乙未秀郷総兵衛向のとき武州
一かたて 稻荷くね新でーに白狐白羽の矢とくへ其
秀郷とあふけ矢とて東妻とあつりしより社と
造立せんやあるは白狐をりし神鳥のひるふ号也と
その教まてさうひ社地とさしひるは榎田の郷はひるふの妻
阿うらんはるの号地なりし社と造立ありしと鳥森と
神鳥のひるふと号ありて号ありし人一そのは江府の
河原屋につきは地武士甲まきしなりし、将軍の忠告ありて
人のこしむるは信化お屋敷とてま地よりりし、
曆の四條より甲の火の甲よてのとれりその時人社の

比と傳ふとてまてまはくは流ありし

○溜池 山王社北の南より赤坂より

補

此比の湖ハ 釣命よりりて江別湖水の湖と放しとありし
湖の湖ハひるふなりし比の湖ハ丸なりし比よりりてまてま
御入園のちるは池と志はく上水よりりしとありしと
中付りて又比地とて一榎山の池よりりし一はありし
その竹より一の妻より記ありし

○印の援 偏比の流はあり

ひし 浅野幸長 釣命ありては所の水とつきありし幸長
のは矢鴨長云云よりしはくのあり人ありしとありて水と
のぬこ人幸長の公用の下又長雲子孫まてのためして
援と多く植よりたり、植より今二三株あり

○援取 堤より麻布の方へり、取し大板一枚あり

補

付昔大木の板ありし今、植より一途ありと植よりを老伝云



板保田の村氏箕輪氏桂堂よりあるなりとの事又蓋と云ふ
との板保(板)と云ふ平枝の後揚枝と板の根より云

○葵の園 大目お辻番前の子と云ふ事と云ふ事(蓋志)云

○靈南坂 福元の人の坂に市多断(の通)

蓋南和向(日向)の坂に市多断(の通)江戸より入り渚人
りの徳(徳)一寺と造立芝(梅)地とト(寺)より入り佛日山
十年の(後)一寺と造立芝(梅)地とト(寺)より入り佛日山
東(祥)寺より入り(寺)と(寺)の(寺)より入り佛日山
と(寺)より入り(寺)と(寺)の(寺)より入り佛日山
お(寺)より入り(寺)と(寺)の(寺)より入り佛日山
廣(岳)院より入り(寺)と(寺)の(寺)より入り佛日山
又(寺)より入り(寺)と(寺)の(寺)より入り佛日山
同(寺)より入り(寺)と(寺)の(寺)より入り佛日山
○江戸見坂 同(寺)より入り(寺)と(寺)の(寺)より入り佛日山

は坂より江戸中又えよりと今(寺)より入り(寺)と(寺)の(寺)より入り佛日山

○西の空注の方

○八幡宮 西久保 天台上跡未 別當 普門院

石清水勧修 一条天皇寛弘年中の法座寛永年中の寺建
立此(寺) 毎年八月十五日放生云云(寺)行

○土取場 西(寺)菅(寺)町の(寺)と(寺)の(寺)より入り佛日山

○城山 西の(寺)上(寺)養(寺)徳(寺)ち(寺)後(寺)や(寺)一(寺)ま(寺)の(寺)ト

○熊谷深田直実城跡の(寺)一(寺)ひ(寺)つ(寺)と(寺)ト

○熊谷橋 同(寺)市(寺)谷(寺)所(寺)より入り佛日山

補

何(寺)の(寺)城(寺)を(寺)ひ(寺)つ(寺)と(寺)の(寺)より入り佛日山
き(寺)こ(寺)の(寺)城(寺)を(寺)ひ(寺)つ(寺)と(寺)の(寺)より入り佛日山
私(寺)志(寺)の(寺)氏(寺)神(寺)武(寺)彦(寺)太(寺)田(寺)の(寺)庄(寺)私(寺)市(寺)の(寺)村(寺)上(寺)天(寺)皇(寺)の(寺)氏(寺)
丹(寺)治(寺)の(寺)何(寺)系(寺)武(寺)別(寺)大(寺)里(寺)弘(寺)ト(寺)向(寺)て(寺)松(寺)市(寺)の(寺)大(寺)ま(寺)と(寺)号(寺)又(寺)れ

新編 武蔵野史 卷之四 郡と使と 正治のころなり 赤市のもつたハ
さういふころなり 赤市を治すといふ土師とワシと信じて
さういふ後ありしれも非なり 赤市のまゝに 赤の志の祖神と
いふとさういふも 熊谷の行い 正治のころなり 赤市のまゝに
昔西宮の村の郷大の村を赤市のまゝに 赤の志の祖神と

○番神山 同所仙石越前守やきこの所と云

じり 正治のころ堂あり土師の釈也と毎屋をさしと法苑堂と
いへり 其後 正治のころ法苑寺の日照上人の持念せり 正治
の二十番林と持念して 凡人は縁縁を後より小田原におま家の
所 赤のりて 社と連番林と勸誘をいへり 番林山といひ
は山といふと 太田道灌の古城をいひいへり

○熊野神社 別當 正行寺 天台 上野末 飯倉町

○土器坂 赤羽町の坂といひ 飯邊綱三田よりあり 正
此所といふと 馬工郎の引けるさういふと云くともいへり 正

補

毛りて 敷ひききうあるころなり 窪毛坂といふといへり
このころなり 赤坂といひ 土器町といひて 正治のころなり

補

○將監橋 赤坂より 赤坂より 赤坂より 赤坂より 赤坂より

補

○赤羽橋 赤坂より 赤坂より 赤坂より 赤坂より 赤坂より

補

○赤羽川 赤坂より 赤坂より 赤坂より 赤坂より 赤坂より

補

○赤羽稲荷 別當 延命院 真言 赤羽橋

補

○榎坂 赤坂より 赤坂より 赤坂より 赤坂より 赤坂より

補

○勝ついでヶ原 土室町とくろり赤羽へちを廣海なる所之
乃催江戸城より寄るの付は可き人教とてるべしと其
ありは二田へけり唐系なるゆゑある人のかゝりき

○真言宗

○愛宕山圓福寺

寺領百石

江戸志言四ヶ寺のうち

○摩尼珠山真福寺

弘法大師の草創 江戸志言四ヶ寺の内

本寺薬師如来弘法大師の作 古語云 武州芝の山中夜毎二
光明とて身法入中ひよ空海は所まかりのをもとを身
くまふ山のいきひの大石あり石よ向く持をりり
一は薬師の身を忽然に現す大師のすすと彫刻とこ

一言け系 △彌人亦天いつとも後内あり

△千手観音 長久寺

補

補

○浄土宗

○三縁山廣度院増上寺 芝檀林 寺領一万五百四十石

人皇百一代後小松天皇御草創開山大蓮社西答上人聖聰大和尚

言上世 中興開基貞蓮社源答上人存應和尚

本尊阿弥陀 惠心作座像四尺 関東浄土談林惣本寺

本堂 東向 横一十間 縦三十五間

山門 釈迦 文殊 普賢 十六羅漢

経堂 開山堂 代々上人影像 方丈

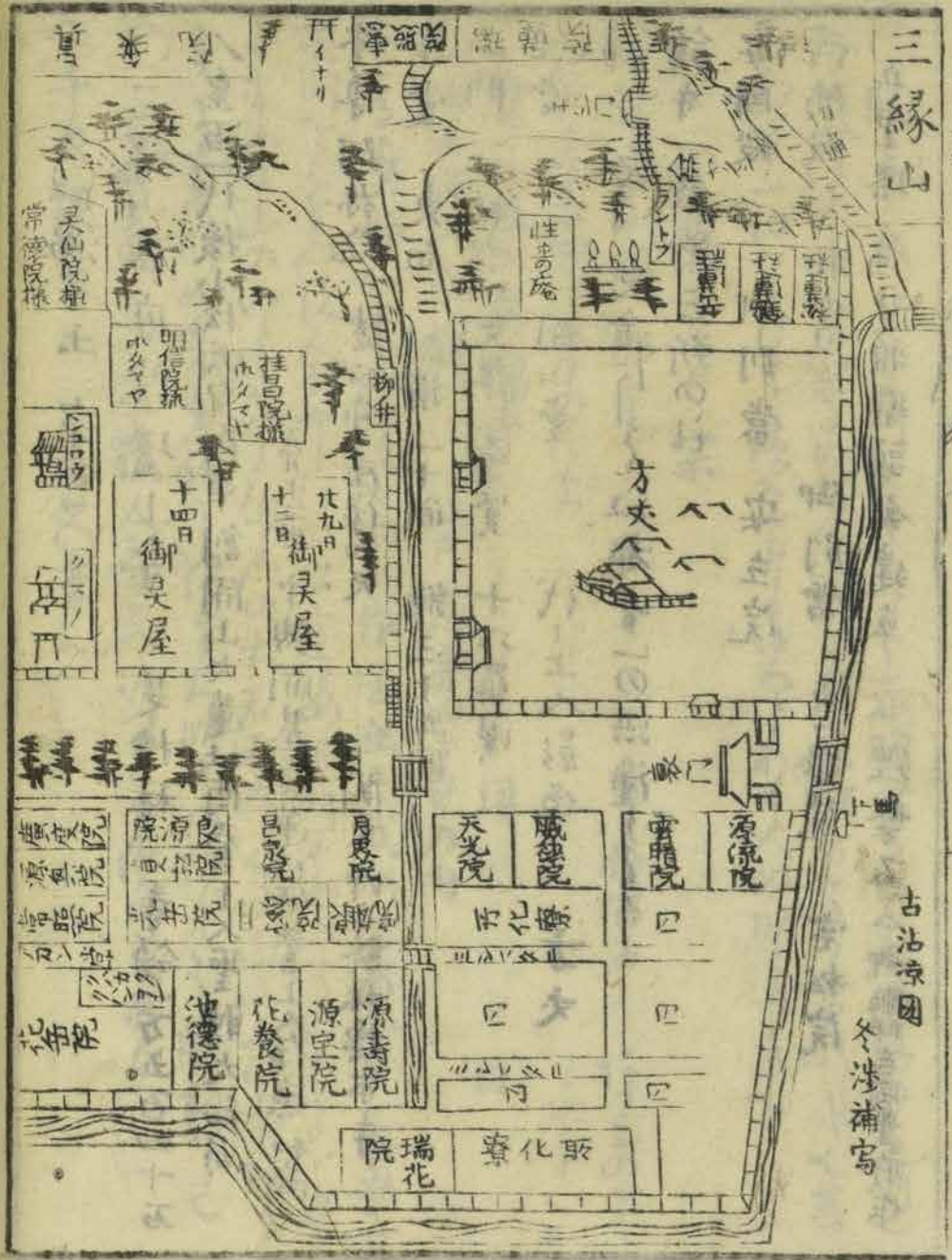
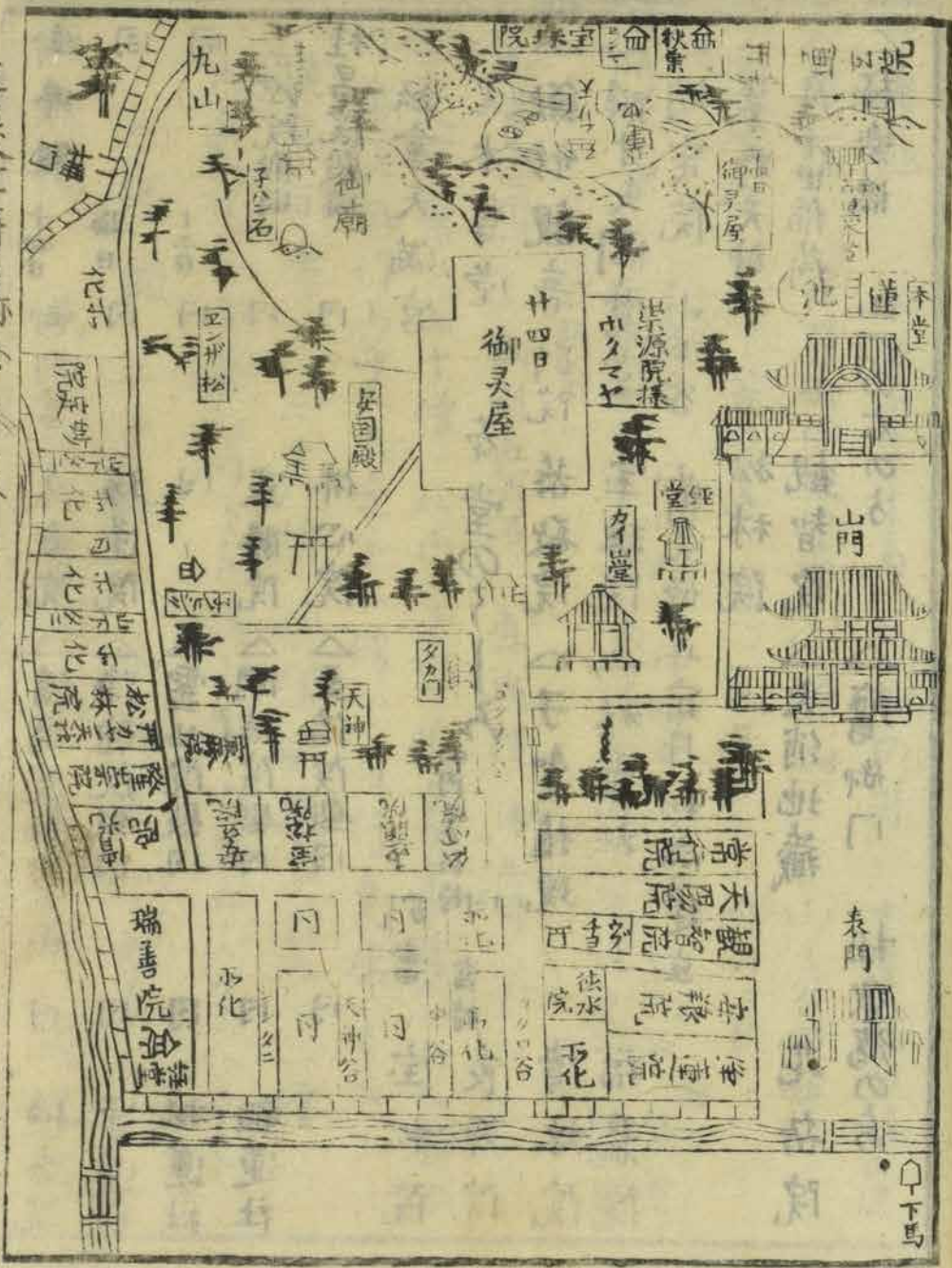
鐘 石子尺余に江都才一の洪鐘あり

鎮守 熊野三所の社

安國殿 御別當 安立院

御佛殿 廿四日 御別當 惠眼院 宝松院

五重塔 酒井雅樂頭敏建立 涅槃石 △御雕師吉岡豊前作



御佛殿 十四 御別當 貞來院 △清陽院殿御佛殿 同 通玄院

同 晦日 同 瑞蓮院 △淨徳院殿 同 同 子蓮社

同 十二日 同 同 △靈仙院殿 同 同 松蓮社

崇源院殿 同 同 寂勝院 △明信院殿 同 同 鑑蓮社

桂昌院殿 同 同 佛心院 △至信院殿 同 同

△飯倉天満宮 同 同 別當 宝松院

△黒本尊堂 本堂のくくろ 山内寺以持 同 當時 良源院

△歙形觀音別院 恭敬院 △子聖推現 同 同 清林院

△辨才天阿魔堂 宝珠院 △秋葉社 同 同 福聚院

△明定院 山下谷 前大僧正定月和尚建立

△茅野天神 松林院 觀智院 △大浦地藏 同 同 花岳院

△産千世稻荷 觀智院 △鷹御門 同 同 極樂橋のあ

△極樂橋 山門の右の方

△蓮池 本堂のくくろ △柳の井 本堂の北卯塔の辺

△系櫻 北四日御佛殿の前 △圓山 山下谷の西

△圓座松 山下谷の西 補 △羅漢石 圓山ニアリ

△所化寮 三島谷 同中谷 神明谷 同中谷 同北谷 袋谷

△御常念佛 御料五百石 惠照院 淨土律 同西谷

△一文字席 五十僧 此内学以三藤より十二僧ハ一山大衆の

月番役執行より上座十二僧と月行支席と云

△横木間席 三十八僧 △縁側席 六十二僧

△大衆凡三千余ありと云 誠と靈山會上より一き

△塔頭 三十坊 各御朱印あり

源流院 威徳院 雲晴院 天光院 月界院

昌泉院	貞松院	良源院	光岳院	円窓院
良雄院	源宝院	源壽院	花養院	他徳院
廣慶院	常照院	源興院	花岳院	浄運院
安粮院	天陽院	観智院	常行院	徳水院
瑞善院	瑞花院	借光院	隆崇院	林松院
心光院	常念佛別院			

補

心光院常念佛別院
 元禄七年才州二世念蓮社貞善上人了也自然和尚大僧正
 任してあり相續て代々大僧正なり
 開山四善上人ハ下総國千葉の人父ハ千葉陸奥守平貞胤母ハ
 新田氏之稚名徳千代九歳より千葉寺に出家し
 表言宗より至徳二年了善上人傳通院開山の才子と成淨土
 門に入後武州を過那貝塚に踏地と得て一字を遺すと
 り今この場上寺なり永享十二年申七月十八日寂告七十五

第二世ハ明蓮社聰善上人西仰和尚と号指場法清寺開山
 三世ハ音善上人ハ江州甲賀の人望月外記の子ハ室徳元年三月
 寺主となり太田道灌と交甚厚一日衆より云

- 看々 天地溘濁色 五妙境界淨刹臺
- 三 惡大坂阿鼻底 一 機不轉 古今交

大宅とハまじりや少小車のけりえて及とけりありて
 言ハハ川空とよ孫き大車に乘りて去世の如き所
 当山ハむし貝塚よりりて光明寺といひて貝塚よりハ
 今麴町平河の邊に慶長の時ハ之よりつる其ハあり
 場上寺と成りて此地越後中將の館とせん

中興開山源善上人ハ武州由木の父ハ由木左衛門源利重
 由木ハ武州在名七堂の中西善と性ハ日奉り日奉宗頼
 内舎人宗親其子宗忠西善の祖之曰ふ又と号善宗十金
 時ありあり源利重とありて日奉利重なり

補

丹波... 補

天文十三年正月生片山宝臺寺... 出かして大正十七年

八月縁山雲吳言上人... 十二世の寺主とある

御駕をけり... 御菩提所とあり

慶長十己年... 今夜吉夢を感す

師微笑... 其夢を覚る... 錢二十疋とあり

老弱... 夢を覚る... 師の曰代

翌日... 釣命あり大伽藍と云

同十三年... 常紫衣勅願寺の... 諭旨と賜り

同十五年... 七月十九日普光觀知國師の号と賜り

元和六年... 十一月二日入寂... 于時七十七齡

十三世正善上人... 郭山和尚... 甲州の人

高坂彈正... 甲州八代

那市部村... 彈正屋敷... 列あり

山門と改建... 元和九年

十四世了的上人寛永三年九月十九日大御墓

崇源院殿一品昌善和興仁清大禪尼

薨御より即導師成万部讀經の大法會と行り

万部御法事澤家とねとけり

寛永九年照善上人了学和尚經藏と剣立

又三鴻中谷の

両谷と縁山の境内とす

万治二年露白和尚當山のまゝり寛文二年九月麻布一本松

退隱にあり代と彼所と退隱の地と

定善上人隨波和尚の付寺領四石増

又本堂方丈諸堂

と及びを復わりいづれも 釣命にあり

浄宗護國篇等あり大緊こし記

△性壽庵 方丈の後の方より小堂く俗薩摩堂とあり

尾刈清須城主松平薩摩守忠吉君の所位牌あり所法各

性高院敷と辨ぬよつま堂ともいふ傷よ小笠原監物

補

とけりの殉死五人の石塔有り前板性高院と同一あり
為寺草創の地貝塚有り後日比谷の地と稱す長三
戊戌年八月今の地よりなるも貝塚よりなり今平河天神の地
松平越後守友成中記にありしをわけて今平河天神の地と
元山との間に在りしを合邊の内板ありと稱す寺の地と
いひまゝの地とあり今も増上寺の持分ありといへど地を
とり貝塚といひし所も廢きなりなりと云

○光明山和合院天徳寺 知恩院末 寺領五十石 紫衣地 西窪

人皇百六代後奈良天皇天文二年草創 知恩院宿寺

開山三蓮社稱念上人中興開基十二世晃譽上人 始号天庵

晃譽智徳と云れは人名高家宗少教有りて寺院さし

榮壽院 攝取院 不斷院 光岳院 淨桂院

寺中 宝陽院 榮立院 教文院 榮雨院 智相院

陽龍院 智喜院 和合院 長光院 龍興院

長谷院 淨品院

○西谷山善向院大猷寺 同末 寺領五十石 日可

人皇百八代後陽成天皇慶長年中草創

開山儀譽上人 本寺運慶作 寺中 善向院

○田中山相福院西應寺 増上末 寺領十石 金杉

人皇九十九代後元嚴天皇應安元年草創

開山明賢上人 中興廿十六世存問和尚

本寺阿弥陀 真心作 鎮守 正一位 稻荷

天正年中 台駕當山入御すし開基の末由御尋ありて

寺依御寄附すも存問和尚の耐 鈞命ありて一夏九旬の

中法幢となりて一百餘人の不化を引て宗風の實際とあり

當寺徳安の開基よりこのころ三百余歳及び境内も廣し

△朝日の松 △若きかけ松 △火除の松 境内あり

補

宝曆の末當寺回祿ありては松も焼くると云

御名代と云くは勝と称してその後傳りてくるもの一度も遠く小
るより諸人のあつた感懐と信す年と稱して布引死す時一
山そのまゝなるものと感懐のあつた境内に埋る幅尺余高八尺
案として既記形をとり石塔と建つて行者文周方丈より清
くつもの石塔と云ふことと堂と造馬頭観音と女石を造り
布引の観音と云ふあり文周の代に持てこれとある人がありき

補

○某師堂 切通山きりあり 別當 一經院

○山伏塚 坊上寺之傍谷の四大本根二本あり末歴多し

補

○禪宗

○万年山青松寺 曹洞宗江戸三ヶ寺の中 あつこの南

開山雲崗後徳大和尚

文明の頃青松何某雲崗和尚と稱依り建立せしゆへるの名字

と寺号より此地は貝塚なり天正の頃は比より川あり

塔院 清岸院 芳壽院 信叟院 吟窓院 忠岸院

当寺は昔松宮内より人建立せりよとて貝塚よりあり
くよ貝塚青松寺より此地はその麴阿貝塚の南の邊
一回よ当ち懐内より

○勝林山金地院 五山僧録 寺領七百石 芝切通

開山大業和尚 大覚禪師宗脈

元來京都南禪寺の金地院の宿寺なり

補 補 補

△楓 大いし境内よりあり 御城内よりあり

△本寺聖觀音 唐佛 毎月十八日観音懺法あり

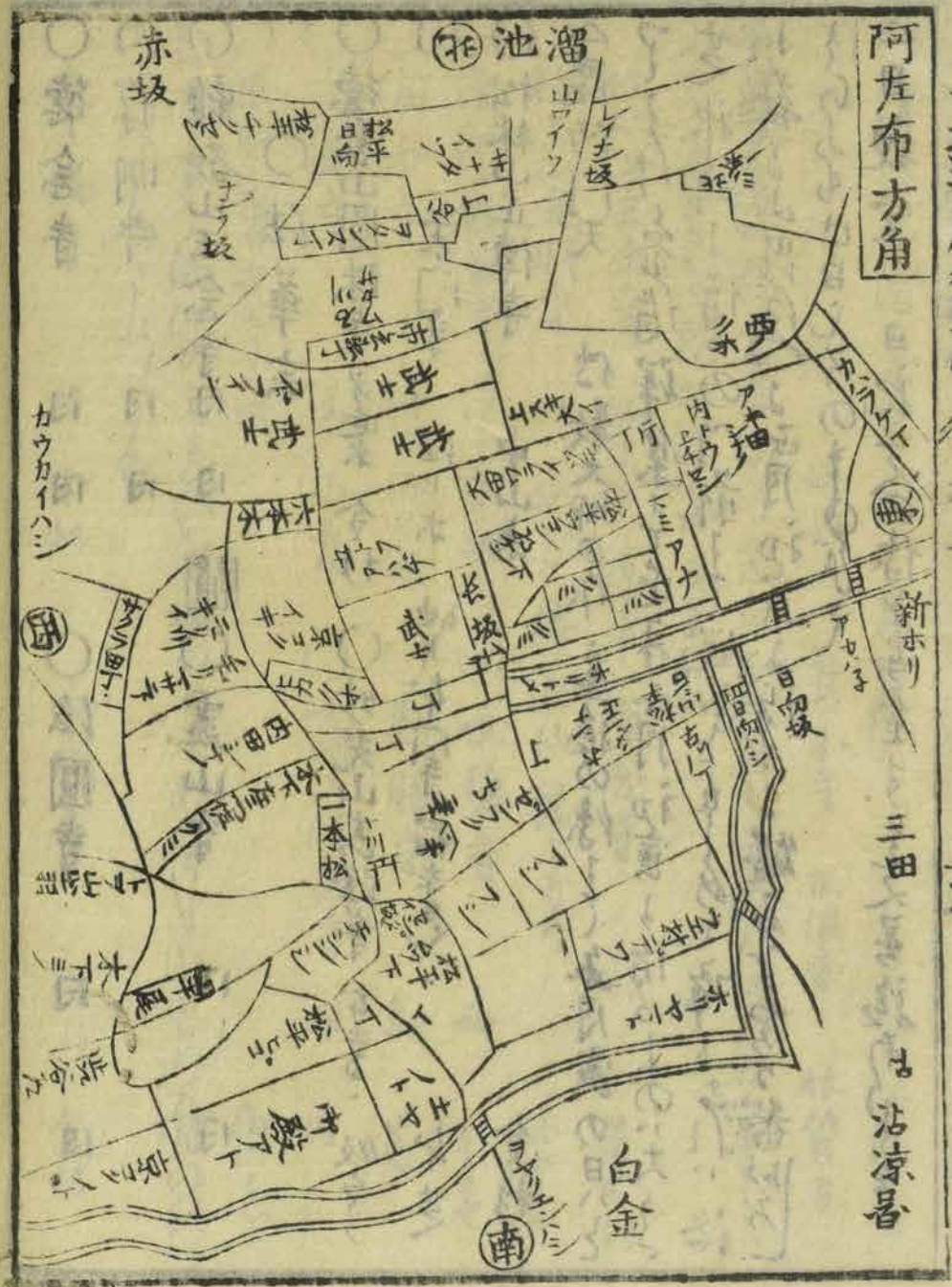
○金竜山福臨光寺 昔松末西屋 ○真珠山光室寺 寺跡あり 切通

○東雲山青竜寺 切通

○一向宗

○万輝山陽泉寺 保金寺末後池の上

阿左布方角



新ホリ 三田 沾涼暑

十六

麻布 又阿左布と書 平尾

○麻生 あさぶ 又麻布 あさぶ 浅生村 誌土 梅田 谷町 市々湯町 六本木

上町 雑色 ざつしき ありつれも一所の小名に麻布七村より

補

麻布ハ矢盛庄七郷の内にておきき名に麻布七村より

近きよりやいり右左板の七村は市々湯町谷町の勢ハ

所よりなりてのふりりけいりぬへ

○幸園谷 市々湯町の下 東登老れと

補

○紅葉屋敷 市々湯町 伊波依原は夜やきとりのり

○市々湯町 玉のくちのふりりぬへ

○藪稻荷 市々湯町よりと古麻子あり今いづれのお

再校工府名抄志 長工

○芋洗坂 日ヶ窪より一本橋へ上る坂之坂下ニ稲作所の社あり麻布氷川の坊也毎年秋も近在より芋とするて附来いたりとの文のまじりて毎日市ありけりなり

○日南窪 長坂の西 毛利政次所築やよきもの町

○梅田町一名百姓町 一本橋の西 じり御入園の村内外梅田の百姓はけりて代地として石段の町造りせりなり

○石段山稻荷 梅田 天台 別当 霞山觀明院 上野末

昔ハ石段山あり引地のれば地より今も久保町辺迄まで

○朝日觀音 日町 浄土一向山三光院尊称寺 石段末

開山 沘峯傳藤上人 三光院清心は五光院の開基ニ

此者ハ長者丸の輩りり出伏伝志ハ三光院ハ五光院の傍ニ此ニ芝院と云織田信長之の婦 筒井伴繁も此ノ傍ニ居り成場上者十の世御宗上人のまゝなり

○子安業師 日町 志言 彌禪山正光院 志言山正智院末

惠心僧都の作人皇六十六代一條天皇降誕の所祈形佛之

○一本松一名冠の松 麻布 ○相生坂 一本松の坊 石段末や

大本の松より石段と云けり天慶二年係經基王孫列平が同級

よ入て海濱の村新川を越て今の所へり 石段末や

この一の松葉飯と柏の葉よりて其の日に葉を 麻布の

かりきぬより 系象のは本と云けり

彼氏をハ後ハ轉りて精舎 親王院ハ今ハ松谷ハ幅

福寺の本号也 又天のあら姓奴ふき女は松よ呪り 日町

とけり姑の下の松あり 又小野篁の松ハ松谷にあり

一本松に經基王の本歴けり 文段ハ松谷ハ亦あり

病といはれり 竹筒ハ酒と云けり

かりて焼ぬ今ハ古本の志 わい わい わい

○栗飯沢 日町 の志 の志 の志 の志

○氷川社 麻布 真言 去福さま 別當 徳乘寺
高木の産土社也 祭礼九月十七日

補

は神麻布惣社なるなりと云ひ一社社なりしものなり
文明年中太田道灌武州一宮大文の氷川の神と勧請せし
當社旧地ハ麻布切通し今坊上寺退隱の地なる社地二千
坪余なりしなりと云一奉祀ハ當社の神本より一本松の根ハ
いろくあれしもの松の河連ハ社古より當社ありし所
多かりし私をねて當社の神本よりへき

補

○末廣稻荷 麻布坂下町の落さ 社主 中村日向寺
慶長年中當所奉割の法也社あり柳一本あり枝
葉ささく相大よひよこれと云ひなりて世人未
廣の本といひありしなり

補

補

○竹町稻荷 日向 別當 法皇院
○兜稻荷 麻布六町あり

○錢懸松 麻布ありと云はに云ふなりと云ふなり

所の人の云天志寺に古本ありしなりと云ふなり
字より云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
もあらん根より一丈よりありて梢あり 疑ふくこれなり

○仙臺坂 松平陸奥もなト平きのか

○日向坊 日向坂 三田へり玉の坂

毛利日向ち友平きありしなり

○御殿旧地 文禄のころ麻布御殿あり今ハ武士やまき
は地眺や他すくしなり故ハ富士見御殿ともナリしなり

補

○御菜園の址 日向は地ハ右より御殿ありしなり

補

○富士見稻荷 女の前あり

○平尾 町人石入組の村也 世ハ廣尾より

○稻荷社 日向 千歳寺の持

補

△連郎の楓ありし今枯り又根と栗の根より一丈分りて十
文字よりあひあ本とらあひて枝をさしきり人さ即ち人きり
○柳葉園橋 一名相模及橋 白令が塚はかり土屋お橋と友
下を友のたあるゆへに伝さるはけしとり

補

○柳葉園坂 同坂の坂より葉園のりり一登又お橋及坂と云

補

○新堀 元禄のけりめ坊上寺南の地蔵より掘通し

補

水上、渋谷川を通り并橋の川と流りゆ

補

○十番 同坂右坂より十番の橋お杖流りゆりか
いひまわりはちよる場あり代よりあるをさるは刊しては
○龍土 麻布百姓町の西今井よつては地名は誤りあれも
佐用しは寛永のころは此に龍とありて是を夜晦冥か
ていふと云伝説して何れも云龍せしといふも云れす

此地名も岩下もありて彼をみて龍人といふ按て誤りあり
地なる漁獵の窟所なりと云るゆへにいふは誤考なり

八
想
内